

こどもと健康

NO・162 2015・12・7

インフルエンザの季節はもうすぐ！

今週になって急に冷え込みましたが、例年この時期からインフルエンザの流行が始まります。幸い、今のところ流行の兆しはありません。全国の感染症サーベイランスでも11月23～29日の第47週ではインフルエンザ4927定点で919件の報告があり、1定点当たり、0.19と流行の始まりの定点当たり1.0を下回っています。一時沖縄県で3.9まで上昇し今週も全国1位でしたが、定点当たりは1.03でした。次いで富山県0.44、愛知県0.38と続き大阪府では0.09となっています。昨年は例年より早く12月から流行が始まり、12月15日からの第51週には全国平均で定点当たり15.2、大阪府17.8と注意報レベルの10を超えましたが、今シーズンに入って堺市子ども急病診療センターと泉北急病診療センターでインフルエンザと診断されたのは内科1例、小児科1例に過ぎません。今年は年内の流行には至らず、例年通り年明けに流行が始まるでしょう。

年内にインフルエンザワクチンの接種を受けましょう。当院では携帯電話、パソコンから下記アドレスにアクセスして予約をお願いしています。13歳未満は2回接種ですので4週間隔(3～4週で可)で予約して下さい。但し、Web予約は12月26日で終了しますので、27日以降は電話で予約をお願いします。受験生の方には2回接種をお勧めしています。今シーズン、WHOの勧告により日本でも3価ワクチンから4価ワクチン(A香港型、A pd m09型とB型ビクトリア系、B型山形系)に強化されました。それに伴い、ワクチン納入価が500円余り値上げされましたが、今年の接種料金は一部を除き、据え置きました。

アメリカ小児科学会も9月8日、「生後6か月以上の小児全員にインフルエンザワクチンの接種を行う必要がある」と勧告し、併せて「幼い乳児を守るため、同居家族、養育者、医療関係者、保育関係者とインフルエンザシーズンに妊娠している、妊娠を予定している、分娩後である、授乳中である女性全員のワクチン接種」を推奨しています。

6か月以上3歳未満は初回3000円、2回目2500円、3歳以上は初回、2回目共3000円とします。65歳以上の堺市民は1500円です。

確保したワクチンが無くなり次第、受付は一旦中止しますが、ワクチンが確保できれば1月にも接種します。ワクチン接種から2週間程度で抗体は上昇しますので、流行が始まれば、2週間間隔で接種してください。ご不明な点はホームページ、受付まで。電話による予約も可能です。

<http://0722977771.com/i/>

12月30日(水) 午後～1月4日(月) 休診

RSウイルス感染症、流行中！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。RSって何？と思われる方も多いでしょう。Respiratory Syncytial の略で要するに風邪のウイルスの一つです。このウイルスの感染力は強く、保育所を中心に流行します。年長児以上は鼻カゼ程度でおわるケースもあるのですが、乳児が罹ると重症化することがあります。インフルエンザウイルスと同じく、冬のウイルスですが、ここ数年は9月から流行しており今年も9月になって全国的に患者数が増えてきました。潜伏期は4～5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴います。乳幼児特に、6ヶ月未満の乳児が罹ると、更に喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）を伴った咳をして高熱も出て呼吸数も増し、息苦しくなることがあります。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。乳児は急速に気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎となることがあるので、注意が必要です。ありふれたウイルスですので、1歳までに半分、2歳までに殆んどの子が一度は感染を受けますが、初感染の時に最も症状が強く出ると言われます。何度でも罹患しますが、年長児になると次第に症状は軽くなり、鼻カゼ程度で終わる子もいます。お母さんからの免疫移行がない為、お母さんの鼻カゼから新生児が罹患して重症化することがあります。未熟児や先天性心疾患、慢性肺疾患の乳児には重症化を予防する為、抗RSウイルスヒト化モノクロナール抗体（シナジス）の注射を流行期の秋から春にかけて月1回注射して感染を予防することが出来ます。

インフルエンザと同じく飛沫感染をしますが、経口感染もあって赤ちゃんはなんでも口に入れますので、注意が必要です。感染の予防にはうがい、手洗いとアルコールによる消毒です。風邪をひいたら、咳エチケットを守り、特に赤ちゃんが口に入れるおもちゃやドアノブ等を消毒しましょう。家庭に乳児がいる場合は家族が鼻カゼ程度でも注意が必要です。

大阪府の感染症サーベイランスでは10月12日からの第42週以降、感染性胃腸炎に次いで第2位にランクされ、今なお増加傾向にあります。年齢別では0歳児が33%、1歳児までで68%を占めますが、今年は年長児も結構罹っています。例年、年末に流行のピークとなり、春まで流行が続きます。RSウイルスの迅速検査がありますので、ヒューヒュー、ゼーゼーを伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

麻痺を伴うエンテロウイルス？感染症

8月以降に、ポリオ様の急性弛緩性麻痺を認める患児が報告されるようになり、10月13日になって急遽日本小児神経学会が調査したところ、僅か3か月足らずで全国から47名(大阪府3名)の報告がありました。年齢は0歳～11歳(中央値3歳)で四肢麻痺8名、対麻痺12名、単麻痺19名その他8名で麻痺の前に発熱(81%)かぜ症状(63%)があつて急に手足の麻痺が出現し、各種治療を試みましたが、麻痺は消失せず、その原因と治療法の確立が急がれます。一部の患児からエンテロウイルスD68が検出されており、米国でも昨年エンテロウイルスD68による下気道感染症が多発し、呼吸困難例や弛緩性麻痺の患者が約1000例報告されています。わが国でも8月頃から喘息様症状から呼吸困難で人工呼吸管理が必要な患児が報告され、一部の症例からエンテロウイルスD68が検出され、一部の症例に弛緩性麻痺を伴っていました。その後大阪府では5名に増加、堺市でも1名が入院しましたが、麻痺は残っているそうです。今後の調査研究により早期の原因究明、治療法の確立が望まれます。